

草津市の地域幸福度(Well-Being)指標アンケート調査の実施について

1 調査の概要

- ◆名称：草津市の地域幸福度(Well-Being)指標アンケート調査
- ◆目的：「第6次草津市総合計画第2期基本計画(令和7年度～令和10年度)」の策定を進めるにあたり、市民が感じている「暮らしやすさ」や「幸福感(Well-Being)」を可視化し、今後のまちづくりの参考にするため実施
- ◆調査対象：市民3,000人
※4月1日現在で18歳以上の市民から、年齢・居住地域の2段階による無作為抽出
- ◆調査方法：郵送およびインターネットによる調査
- ◆調査項目：①回答者の属性
②地域における幸福度・生活満足度(5項目)
③生活環境(27項目)
④地域の間人関係(10項目)
⑤自分らしい生き方(9項目)
⑥自由記述

※②～⑤の設問は、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが作成し、デジタル庁がデジタル田園都市国家構想の実現に向けて全国の自治体での活用を推進しているものを使用

2 スケジュール

～～～対象者基準日(4/1)～～～

- 4月 30日 部長会議(重要報告)
議会説明(正副議長、ポスティング)
- 5月 13日 調査票発送〔～6/5締切〕
- 6月中旬～下旬 回答結果集計・デジタル庁サイト内のダッシュボード(個別調査結果)に反映
※別途、ウェルビーイングにかかる職員研修を実施予定(6月6日)

<参考1>

地域幸福度(Well-Being)指標について

地域幸福度(Well-Being)指標とは、主観指標と客観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「幸福感(Well-Being)」と「暮らしやすさ」を数値化し、可視化するためのもので、デジタル庁が全国の自治体での活用を推進している共通指標です。

主観指標【アンケートによる主観データ】	客観指標【オープンデータによる客観データ】
<ul style="list-style-type: none">アンケートで集めたデータをもとに、主観的な「幸福感(Well-Being)」を可視化時系列での比較に強い	<ul style="list-style-type: none">国等が実施する各種統計調査のオープンデータ等から、客観的な「暮らしやすさ」を可視化分野間などの比較に用いる



主観指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方)から構成されています。

幸福度・生活満足度を計る4つの設問

- 1 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 2 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 3 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？
- 4 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちにいると思う



3つの因子群

※因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽
子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間
都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害
事故・犯罪

地域の人間関係

地域とのつながり
多様性と寛容性

自分らしい生き方

自己効力感 健康状態
文化・芸術
教育機会の豊かさ
雇用・所得 事業創造

あらかじめ用意された設問項目でアンケート調査を実施し、デジタル庁「地域幸福度(Well-Being)指標サイト」にアップロードすることで、同サイトのダッシュボード(個別調査結果)に反映されます。これにより、主観指標と客観指標のグラフの形や数値を用い、本市の特徴を俯瞰的に捉えるためのデータが活用できるようになります。

また、ダッシュボードはオープンデータ化されていることから、地域幸福度(Well-Being)指標を活用している他の都市との比較も可能となります。

<参考2>

ダッシュボード活用例 (デジタル庁「地域幸福度(Well-Being)指標活用ガイドブックから抜粋。イメージとし掲載されているため、一部不鮮明な部分がございます。)

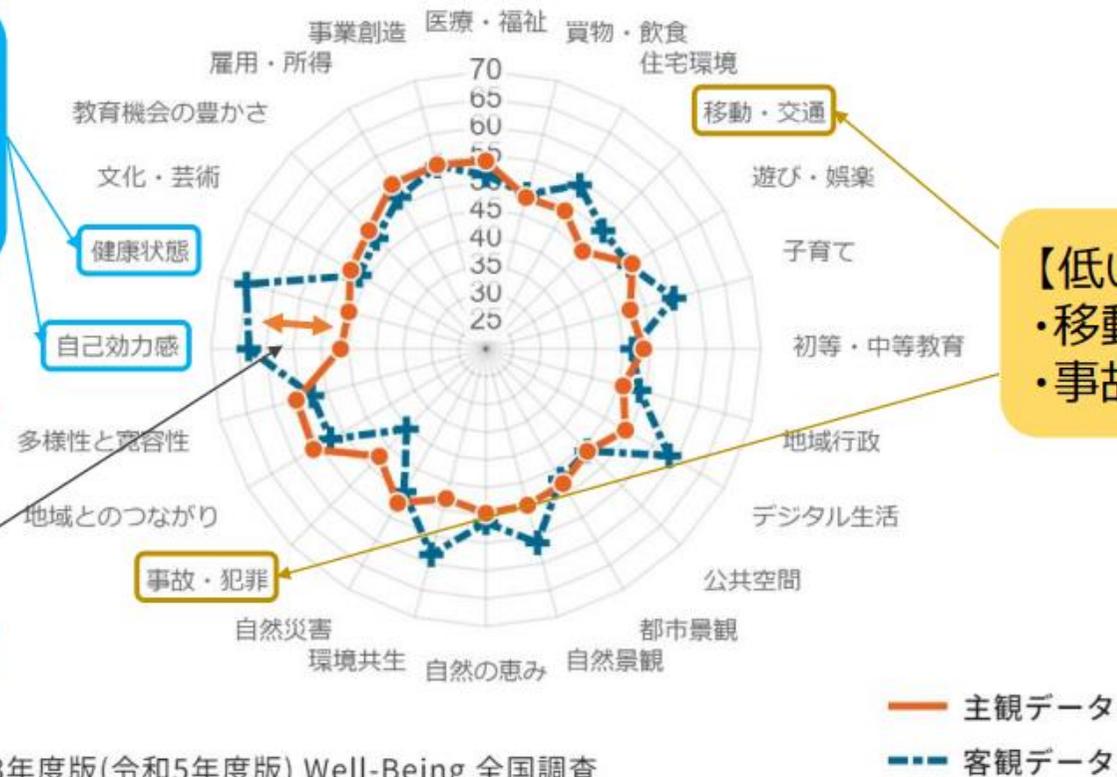
①因子(カテゴリー別)の偏差値のレーダーチャート

- レーダーチャートの凹凸から、まちの個性を把握するヒントが見えてきます。
- 主観と客観の間のギャップの大きさも、まちを理解する上でポイントとなります。

カテゴリー別

【高い偏差値に着目】
・自己効力感
・健康状態、等

【ギャップに着目】
主観指標と客観指標の間の値のギャップ大きい

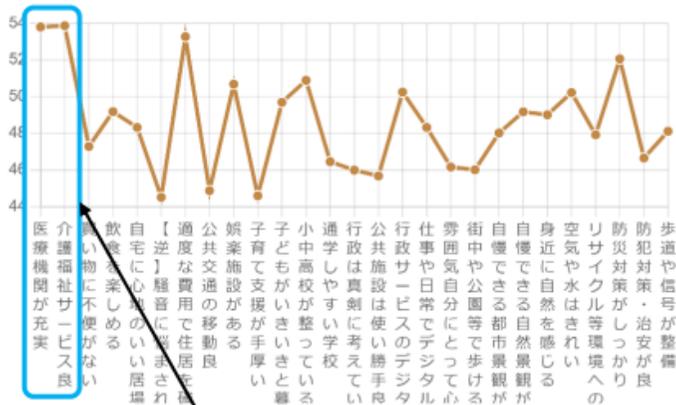


【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

②因子分析用グラフ

■ レーダーチャートで大枠理解した各因子について、どのKPIにより因子の値が高くなっているか、あるいは低くなっているか、その要因を分析することができます。

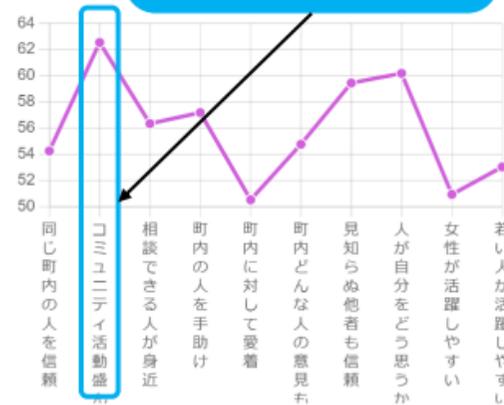
生活環境



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

医療施設や介護福祉施設の評価が高い

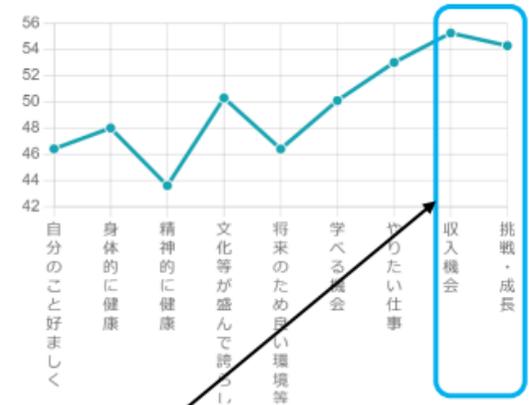
地域の人間関係



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

地域には収入を得る機会が多く、成長の機会がある

自分らしい生き方



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

③他の自治体との比較資料

■ 人口規模・産業構造が類似している自治体、近隣自治体や世代別人口増減率が類似している自治体を比較対象として導出。該当自治体のレーダーチャートを参照し、街の特徴を形や数値から比較することができます。

鎌倉市(サンプル)			
人口	約17.3万人	高齢化率	約31%
可住地人口密度	6,450人/km ²	昼夜間人口比率	97%
都市の特徴・周辺地域との関わり	幕府開府以来700年の歴史と、山と海に囲まれた豊かな自然を有する日本屈指の観光都市。一方、自然と文化に惹かれて当地にオフィスを構える企業も多く、新旧が調和して発展している。また、市内に所在する大船駅や国道134号等は湘南地区とそれ以北・以東を結ぶ交通の要衝である。		
将来都市像	古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち		

カテゴリ別

【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

比較
対象
の
導出

方法①
人口規模及び産業構造が類似している自治体

- 人口規模や産業構造を基に類似する自治体を独自に選択
 - 政令指定都市、特別区、中核都市、施行時特例市に含まれるか否か
 - 人口規模(15万人以上、10万人以上、5万人以上、5万人未満)
 - 1次産業、2次産業、3次産業の比率

方法②
近隣自治体

方法③
世代別人口増減率が類似する自治体

詳細は Appendix を参照

三鷹市

カテゴリ別

【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

藤沢市

カテゴリ別

【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

木更津市

カテゴリ別

【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

■ 1歳区分での5年から10年単位での増加率・減少率を基に類似する自治体を独自に選択